

国際会議報告

第2回塑性加工国際会議 (2nd ICTP) 出席報告*

池 浩**

1987年8月24日から28日にかけて西ドイツ、シュトットガルト市において標記会議 (The Second International Conference on Technology of Plasticity) が開催された。本会議は1984年に第1回を日本塑性加工学会と精機学会の共催により東京で開催したものである。今回はAGU (Arbeitsgemeinschaft Umformtechnik) とFGU (Forschungsgesellschaft Umformtechnik mbH.) の共催によるものであり、組織委員長のK. LANGE教授 (シュトットガルト大学) が中心となつて準備された。

本国際会議は塑性加工全般にわたる唯一の国際会議であることが特徴であるが、今回は発表件数の制限から板・型材圧延は除かれた。予想を大幅に上まわる講演申

し込みがあつたため、会場数も講演件数も当初予定より増やしたと聞かすが、それでも相当数の講演が受け付けられず、プラスチック関係は発表が一切なくなるなどの種々の問題を残した。

今回会議の参加登録者数と講演件数を国別に分類し、前回と比較して表1に示す。今回は29か国から417名が参加し173件の講演発表が行われた。日本は今回、参加者数では地元西ドイツに次いで2位である。講演件数では56件と全体の約1/3を占め1位を保った。塑性加工関係の研究が日本で活発なことの一つの証明とみることができよう。

会議の会場はシュトットガルト大学ヴァイヒンゲン校舎であつたが、Sバーンと呼ばれる電車が会場入口まで乗り入れているので極めて交通の便が良かった。また4会場が一つの建物に集中しており、ロビーの広さも十分に、隣接して大学食堂があるなど一大学でこれだけの規模の国際会議を優に開催できる設備をもっていることに感心した。わずかに残念だつたのはいくつかの会場は大きすぎてスライドが暗かつたり、質問者にマイクが準備されていないので討論が聞きとりにくいことであつた。

会議のプロシーディングズは2分冊で合わせて1350ページもある立派なものでSpringerから出版された。ただ一般講演の論文は8ページの限度でかなり豊富な内容が込められているのに講演時間は15分 (他に討論5分) と短く、ややバランスが悪い感があつた。

講演発表の内容はやはり国ごとに研究水準の高低が出てくるが、日本からの発表は概して高いものが多かつた。しかし話し言葉の面での英語力の不足と、過剰な表現を良しとしない国民性のために、表現力が今一つと感じられるものが見受けられた。一面では日本人の講演発表者には従来になく若い人が増えている感があり、今後が楽しみである。西ドイツからの発表は数が多いが研究としては未成熟なものが多かつたのは意外であつた。やはり講演のふるい分けは地元有利に進むのであろうか。

講演内容の傾向としては全体に新技術の開発よりは理論・実際両面からの解析が多かつた。組織委員会の取捨選択の方針がそういう方向にあつたのであろうか。日本からの発表は8割方、大学や研究所の人によることになり、民間企業からの発表が国内の講演会の発表件数の比率から考えると著しく少ない結果となつた。

参加者数の動向をみると日本を中心とするアジア・オセアニアグループ、ヨーロッパグループ、北アメリカグループという三つの勢力圏がだんだん形成されているようである。次回の会議はアメリカの開催の番とみえるが、残念ながらこのような広い範囲での国際会議を主催する準備がアメリカにはいまだないようである。そこで第3回のICTPは3年後 (1990年) に京都で開催されることになつた。本国際会議の生みの親としての日本グループの再度の貢献が期待されている。

表1 ICTPの参加登録者数と講演件数の国別内訳

国名	今回 (第2回)		前回 (第1回)	
	参加登録者数	講演件数*	参加登録者数	講演件数
オーストリア	3	0	0	0
オーストラリア	5	3(1)	5	5
ベルギー	4	0	0	0
ブルガリア	12	4	0	0
カナダ	4	1(1)	3	2
スイス	6	2	1	2
デンマーク	14	2(1)	4	2
フランス	24	9	12	6
リヒテンシュタイン	2	2(1)	0	0
西ドイツ	164	41(6)	8	6
イギリス	6	0	17	14
東ドイツ	4	3	1	1
ギリシャ	1	1	1	1
ハンガリー	3	3	1	1
イタリア	11	1	2	1
日本	66	56(2)	311	98
韓国	1	1	3	3
ノルウェー	4	0	0	0
オランダ	11	3	4	1
ニュージーランド	1	1(1)	3	2
ポーランド	7	5	4	6
中国	11	9	22	12
スウェーデン	5	2(1)	10	4
フィンランド	5	0	1	0
シンガポール	1	1	0	0
トルコ	2	1	0	0
アメリカ	19	16(2)	21	8
ソ連	4	1	1	1
ユーゴスラビア	17	5	1	5
チェコスロバキア	0	0	1	0
エジプト	0	0	1	1
インド	0	0	2	4
メキシコ	0	0	1	1
ルーマニア	0	0	0	1
スペイン	0	0	1	1
ルクセンブルグ	0	0	1	0
イラン	0	0	1	0
(台湾)	0	0	5	2
合計	417*2	173(16)	449*3	190

* 筆頭者の所属機関による分類、カッコ内はうちキーノートペーパー数
*2 29か国 *3 30か国

* 本国際会議出席にあつては、日本鉄鋼協会日方向育学術振興交付金が賦与されました。

** 理化学研究所 工博